

授業科目 病態と診療Ⅳ（1） 歯・口腔疾患	区分・教育内容		
授業担当者 東海林 克 （大曲中通歯科診療所）	開講時期	単位	時間数
	前期	1 単位	6 時間／30 時間
授業の目的 感覚器系疾患（歯・口腔疾患）の発生原因とその進行過程、疾患の診断をするための諸検査、そして各病期に対する治療法と、「口腔ケア」について理解する。 授業の目標 1. 歯科・口腔疾患に関する基礎的知識を理解する。 2. 日常看護業務で遭遇するであろう歯科・口腔疾患に関する知識を習得し、看護計画立案をする上での基礎とする。 3. 「口腔ケア」を円滑に行う上で重要な、「口腔ケア・アセスメント」を作成するための基礎的知識と口腔ケアの概要について習得する。			
授業概要 歯・口腔疾患は、耳鼻咽喉科や眼科など他の感覚器分野とは異なって、大学医学部付属病院、歯科大学付属病院、歯科口腔外科を有する総合病院などの特殊な環境下に所属しない限り、看護経験をする事のない分野である。 しかし、超高齢社会となった現在の日本では、ますます「口腔ケア」を必要とする要介護者が増えてきている。さらに近年では、がんの手術や化学療法、放射線治療などの「周術期等口腔機能管理」が注目されている。 本講は、むし歯や歯周病を中心とする口腔内に発生する疾患について総説して、「口腔ケア」をする際に要介護者やがん患者を中心とした手術、化学療法、放射線療法を受ける患者の口腔内の状況を正確に把握できる基礎知識を習得するとともに、日常看護業務に含まれる「口腔ケア」を適正に行うことができるようになることを期待して、上記3項目に主眼においた。 授業計画(進め方) 1 回目 顎顔面・歯の解剖と歯科疾患 口腔内の組織の正式名称ならびに、う蝕と歯周病など口腔疾患に関して理解する。 2 回目 口腔内の診査と治療について① 一般歯科治療総説 歯科治療による保存修復物や歯冠・欠損補綴物の状態、歯周組織の状況の把握法と口腔周囲および口腔内の状況について（口腔ケア・アセスメントを適正に行うために）。 3 回目 口腔内の診査と治療について② 口腔ケアについて 歯科治療と古典的な歯科疾患以外の顎口腔疾患（過去に看護師国家試験に出題された内容）とアセスメントの仕方を中心とした口腔ケアに関して概説する。			
テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 歯・口腔 医学書院			
参考書・指定図書 テキストに併せて、講義内容に準拠した自作の「講義ナビ」を用いて、内容を円滑に行うとともに国家試験受験時に要点を再度参照できるようにする。			
評価の方法 筆記試験 病態と診療Ⅳ200 点満点中の 50 点			

授業科目 病態と診療Ⅳ (2) 皮膚疾患	区分・教育内容		
	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		
授業担当者 大学病院からの非常勤講師	開講時期	単位	時間数
	後期	1 単位	8 時間 / 30 時間
授業の目的 感覚器系疾患(皮膚疾患)の病態・検査・治療について理解する。			
授業の目標 1. 皮膚の構造と機能を理解する。 2. 皮膚疾患の病態・検査・治療について理解する。			
授業概要 皮膚疾患の病態・検査・治療について理解し、皮膚の異常に気づくことができる看護師になってほしい。また、皮膚科学に基づいたスキンケアができるようになってほしい。			
授業計画(進め方) 1 回目 皮膚の構造と機能、症状とその病態生理 2 回目 疾患の理解 (1) 湿疹皮膚炎群～紅皮症 (特にアトピー性皮膚炎とその合併症) 3 回目 疾患の理解 (2) 水疱症～物理・化学的皮膚障害 (特に天疱瘡、尋常性乾癬、熱傷、褥瘡) 4 回目 疾患の理解 (3) 腫瘍及び色素異常症～内臓疾患に伴う皮膚病変 (特に、悪性腫瘍、感染症)			
テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 皮膚 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 病態と診療Ⅳ200 点満点中の 50 点			

授業科目 病態と診療Ⅳ (3) 眼疾患	区分・教育内容		
	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		
授業担当者 羽渕由紀子 (中通総合病院)	開講時期	単位	時間数
	中期	1 単位	8 時間 / 30 時間
授業の目的 感覚器系疾患(眼疾患)の病態・検査・治療について理解する。 眼科における看護の特長について理解する。			
授業の目標 1. 眼の構造と機能を理解する。 2. 眼疾患の病態・検査・治療について理解する。 3. 眼科における看護について理解する。			
授業概要 まず看護として知っておきたい眼球とその付属器の構造と機能などを理解し、よくみられる眼症状や眼疾患についても学びます。 視機能障害を持った患者は多大な身体的、精神的苦痛と苦勞を強いられます。またその程度や種類もさまざまです。看護師が外来や病棟などで眼科患者と接するにあたり、必要な医学的基礎知識をベースに眼科的看護について学びます。			
授業計画(進め方) 1 回目 眼の構造と機能、眼症状、眼科検査 眼球および付属器、視機能にかかわる部位を理解する。 さまざまな眼症状と原因について理解する。 眼科で行われる検査(視力検査や視野検査など)について理解する。 2 回目 眼疾患 眼疾患を代表する疾患につき、症状、病態、治療などについて理解する。 3 回目 眼科における看護 眼科を訪れる患者の特徴を理解し、患者の身体的、精神的、社会的ケアのために必要な看護について理解する。 4 回目 点眼薬と投与時の事故防止 正しい点眼のしかた、検査や治療で用いられる点眼薬の種類や目的、副作用、使用に際して留意すべき点、事故防止策について理解する。			
テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 眼 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 病態と診療Ⅳ200 点満点中の 50 点			

授業科目 病態と診療Ⅳ (4) 耳鼻咽喉疾患	区分・教育内容		
	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		
授業担当者 大学病院からの非常勤講師	開講時期	単位	時間数
	前期	1 単位	8 時間 / 30 時間
授業の目的 感覚器系疾患(耳鼻咽喉疾患)の病態・検査・治療について理解する。			
授業の目標 1. 耳鼻咽喉の構造と機能を理解する。 2. 耳鼻咽喉疾患の病態・検査・治療について理解する。			
授業概要 耳鼻咽喉領域の看護を行っていくうえで、日々進歩する診断、検査、治療に対する最新の知識を身につけておくことは必須である。そのため、機能と構造をしっかりと理解し、耳・鼻・咽喉各領域の機能面、器質面を含めた身体問題を理解してほしい。			
授業計画(進め方) 1 回目 耳鼻咽喉の構造と機能および耳鼻咽喉科の検査と解釈 耳鼻咽喉科の検査と解釈 2 回目 咽頭・喉頭の疾患、食道・気管の疾患と音声・言語障害 3 回目 食道・気管の疾患と音声・言語障害 4 回目 耳に現れる症状と病態生理			
テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 耳鼻咽喉 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験・レポート 病態と診療Ⅳ200 点満点中の 50 点			